

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 W.Co.まつぼっくり
代表者・役職名 氏名 理事長 前田りつ子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

出張こども食堂、夏休み！子どもの体験まつぼっくり

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

7月上旬のこども食堂の日に、公共施設が借りれなかったため、郊外のバーベキュー場で出張こども食堂を開催します。対象は、こども食堂の参加者(両親がいる家庭、ひとり親家庭、外国の親の家庭、多子家庭)を中心に募集します。

夏休みの子どもの体験として、市内のキャンプ場のバーベキュー施設で、楽しい思い出作りをします。市中から30分ほどの山の中なので、昆虫取りや野鳥の声を聴きながら川遊びもできます。対象は、こども食堂の参加者、就学助成金を受けている家庭の子どもを中心に募集します。
コロナ対策を出来る限りして実施をします。(バーベキュー材料は会場のものを利用して、スタッフは3人に減らして実施しました)

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

「結果」ともたくさん申し込みがありました。当日の参加者は、出張こども食堂は、子ども21人、大人16人で合計37人。子どもの体験は、子ども25人、大人23人で合計48人。

「成果」両親がいる家庭、ひとり親家庭、外国の親の家庭、多子家庭の参加がありました。コロナ対策を十分にしていたため、参加者に不安もなく、大自然の中バーベキューを楽しんだり、川で遊んだり、昆虫採取をして、思う存分楽しむことができました。アンケート結果でも、コロナ過のため外で遊ぶことができなかったのも、夏休みに素敵な思い出ができてよかったとの感想をいただきました。

「社会的な変化」子ども達が大きな空の下、元気に遊んだり、自然と触れ合ったりして、笑顔がたくさん見られました。経済的にも厳しい状況にある家庭にも、新鮮な食材のバーベキューで、おなかいっぱいになるまで食べる事ができたようです。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

参加予定の方で、当日急に仕事が入ってしまい参加を取りやめた家族がありました。母子家庭と就学援助申請をしている家庭でした。タクシーなどで子どもだけでも参加できるような配慮をすればよかったと思いましたが、コロナ禍ですので今回は残念ですがやめました。今後の課題とします。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

